

森林ふれあい活動等の実践に関する一考察

庄内森林管理署 柄澤奈奈恵

1 はじめに

平成10年10月に成立した国有林改革特別措置法等に基づき、組織の再編、森林管理経営方針の公益的機能へのシフト等国有林野事業の抜本的改革がスタートしました。この改革においては、国有林を国民共有の財産として、「国民の森林」に位置づけ、国民に開かれた国有林を目指すこととされています。一方、近年、森林とのふれあい、体験林業、森林ボランティア活動、森林教室等森林の保健・文化・教育的利用を求める国民の声が増しに増加しており、国有林として、これらの要請に応え、国民のニーズに対応したきめ細やかな活動メニューの提供による森林ふれあい業務の実践が大変重要な課題となっています。

このような状況に対処するため、今回、当署における森林ふれあい活動事例や児童・学生・一般市民を対象とした意識調査から、今後の森林ふれあい活動の展開に当たって取り組むべき課題について考察したので発表します。

2 当署における森林ふれあい活動等の取り組み

今回の国有林野事業の抜本的改革においては、国有林を国民の共通財産として、国民の参加により、国民のために管理経営し、名実共に国民の森林とすべき旨の考え方が示されていますが、当署においては、この方針を具現化し地域の人々に目に見えるかたちで示していくことが何より重要であるとの観点から、職員が知恵を出し合い工夫しながら次のような国民参加の取り組みを実施しています。

表-1 森林とのふれあい等取り組み事例（平成12年度）

種 目	回数(面積)	時 期	対象者	参加者数	摘 要
(1) 月山ブナ林探勝ツアー	2回	春、秋	市民	49人	写真-1
(2) 体験林業活動	3回	春1回秋2回	児童・父兄	208人	2-4
(3) 市民講座の開講と講師派遣	2回	春、秋	団体	58人	5
(4) 先生のための森林教室	1回	夏	教師	9人	6
(5) ボランティア等の受け入れ	3回	春1回秋2回	団体・個人	60人	7
(6) 21世紀記念分収造林	(0.8ha)	——	団体	——	8
(7) ふれあいの森の設定	(3.5ha)	——	団体	——	9
(8) 市町村の森の造成	(11.9ha)	——	立川町	——	——
合 計	11回			384人	

3 森林とのふれあい等に関する意識調査

(1) 調査方法

今回の調査は、一般市民が森林ふれあい活動に関しどのような考えを持っているかを把握するため、当署の主催するツアーの参加者24名、市民講座の聴講生30名、ウッドフェスティバルの来場者41名、山形大学の学生53名、羽黒第二小学校の児童52名、計200名を対象として、主に署が行う活動の認知度、

望む森林ふれあい活動、森林ボランティアについて、24項目の設問を行いアンケート形式により実施しました。(図-1)

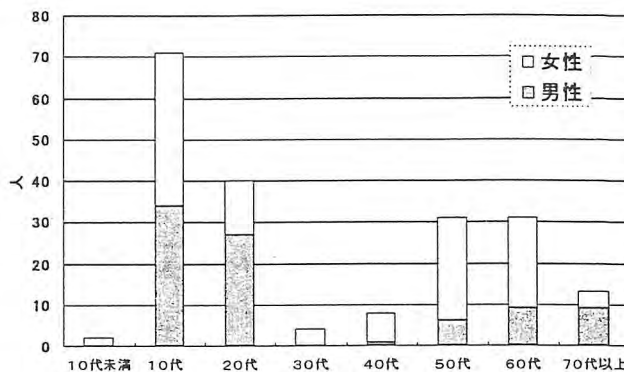


図-1 アンケート参加者の年代・性別

(2) 調査結果

24項目のうち主要な項目の調査結果は次のとおりになりました。

1) 新名称「森林管理署」の浸透度

平成11年3月に名称が庄内森林管理署に変更されたことから、国有林の管理組織としてこの名前を知っているかとの設問では、回答者の76%が「知っている」と答えており(図-2)、新名称が徐々に一般の人々に浸透してきていることが伺えます。

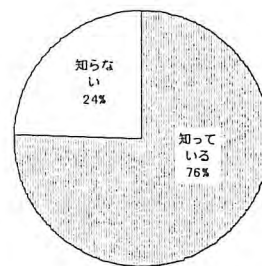


図-2 新名称「森林管理署」の浸透度

2) ふれあい業務の普及状況等について

森林管理署で実施している森林ガイド事業等のふれあい業務について、知っているかの設問には、6割が「知らない」と答えており(図-3)、広く一般の人々を対象としたPR活動の不足が浮き彫りになりました。

また、署が行うイベントに参加したいかどうかの設問では、約4割の人が「参加したい」と答えましたが、若い層を中心に約5割の人が「内容による」と答えており、活動メニューの内容が多く参加を得られるか否かに大きく関わる事が明らかとなりました(図-4)。

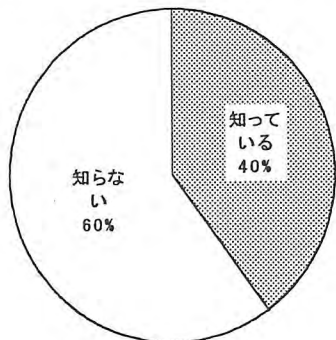


図-3 森林ふれあい業務の普及状況

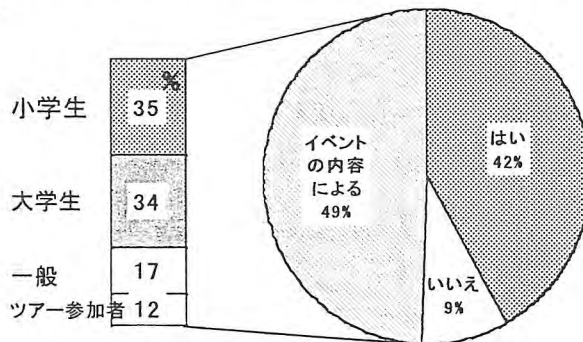


図-4 森林ふれあい活動への参加意向

3) 活動種目について

森林でどのような活動を行いたいかの設問では、世代を通じて、森林浴、動植物観察、ハイキング、山菜・キノコ採取が上位を占めました。山菜・キノコ採取を除いては動きが軽度になるほど人気が高くなる傾向がみられました(図-5)。また、これまで回答者が実際に行っている森林での活動内容に比べて、余り多くを行っていない動植物観察や体験林業をしたいという希望が比較的多く寄せられました。

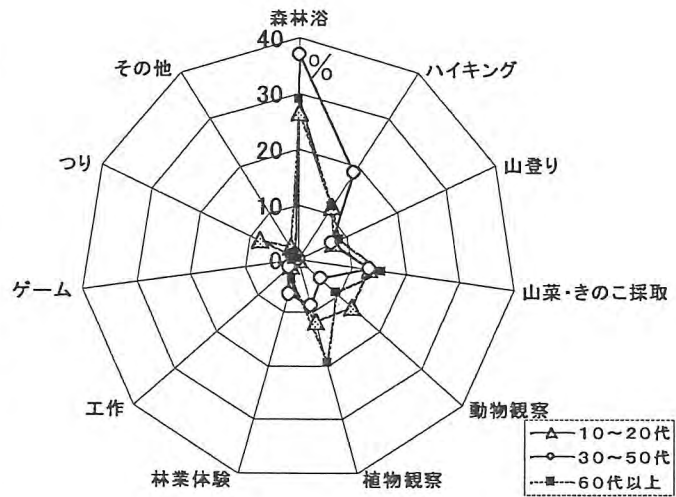
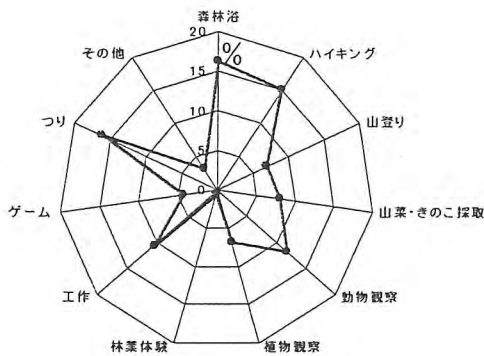


図-5 森林で希望する活動種目

なお、児童からの回答では(図-6)アンケート全体の結果と比較すると「釣り」や「工作」を行いたいとする意見が多くみられました。また、大人よりも希望する活動の種目の幅が広く、具体的に活動の内容を挙げる子が目立ちました。



~具体的には~
木や枝での工作
木の葉を使ったゲーム
かくれんぼ
サバイバルゲーム
森で料理

図-6 森林で希望する活動種目(児童のみ)

4) 活動場所と実施時期について

森林におけるふれあい活動の場所として、どのような場所が好ましいかの設問では回答者の60%が「広葉樹林」、ついで「混交林」と答えています(図-7)。好きな樹木は何かの設問でもブナ、サクラ、マツ、シラカンバ、ケヤキがベスト5を占めており、ブナ林の人気の高さが伺えます。しかし、大学生や街頭アンケート回答者では、針葉樹林が良いとする意見も多数ありました。庄内海岸林のクロマツ林や羽黒山のスギ林が好ましいイメー

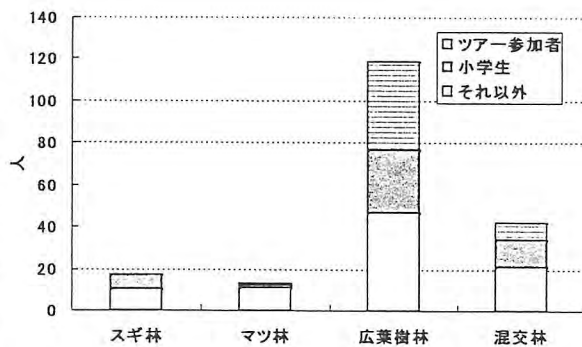


図-7 好ましい森林ふれあい活動の場所

ジとしてあるのではないかと考えられました。また、森林に入りたい季節を聞いたところ、秋が最も人気がありましたが、差はあまり現れませんでした（図-8）。しかし、児童の間では夏が良いという子が42%もおり、「涼しい」「昆虫が多い」「キャンプができる」などが大きな理由となっています。

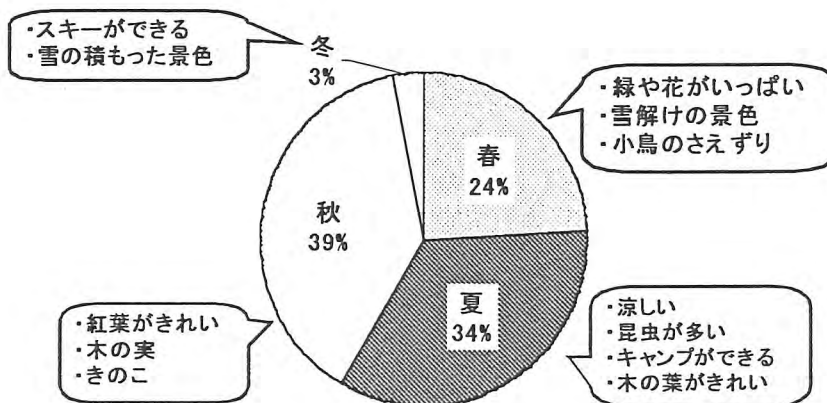


図-8 森林に入りたい季節（理由は児童のもの）

5) 林業・森林ボランティア活動について

①林業・森林ボランティア経験

前述までの森林ふれあい活動全般にわたる設問以外に、それらの中で林業体験やボランティア活動を特に取り上げいくつか聞いてみました。まず、林業活動を行ったことがあるかどうかの設問では、64%の人がないと答えています（図-9）。また、森林ボランティア活動に参加したことがあるかの設問には、93%の人が「ない」としており（図-10）、社会環境、学習環境の変化等から植林や森林の手入れなども全く経験したことがない人が増えていること、森林整備に係わるボランティア活動が極めて低調であることが明らかとなっています。

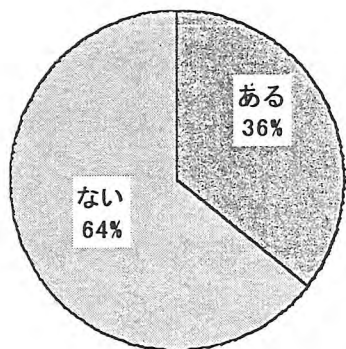


図-9 林業活動経験

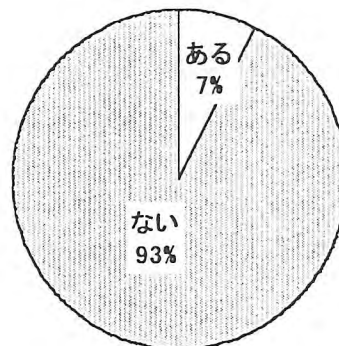


図-10 森林ボランティア経験

* 羽黒小学校ではどちらも実施されているので児童の票は除いた

②参加意向

林業活動等森林ボランティア活動に参加してみたいかの設問では、70%の回答者が「参加したい」と答えました（図-11）。残りの人の「参加したくない」理由として「時間がない」「機会がない」「きつい」が上位を占めました。これまで林業体験は余りないものの、機会があり、活動内容が体力にあった適切なものであれば参加したいとする人が多いことを示しています。

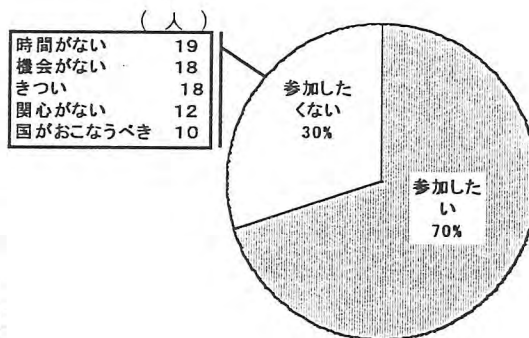


図-11 森林ボランティアへの参加意向

③希望する活動種目と時間

どのような森林ボランティアに参加してみたいかの設問では、植樹、枝打ちが上位を占めました（図-12）。児童には植樹やゴミ拾いなどを友達と行いたいと答える意見が目立ちました。また、1種目あたりどの程度の時間が適切かの設問では、3時間以内とする人が約7割を占め、1日単位が良いとする人は6%にすぎませんでした（図-13）。この結果は児童についても同様の傾向がみられました。林業活動が肉体的にきついという潜在意識が背景にあるものと考えられます。

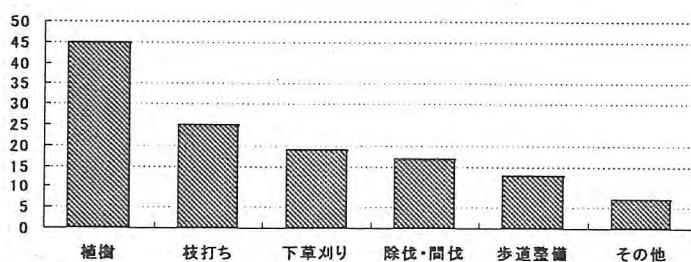


図-12 実施したい森林ボランティア種目

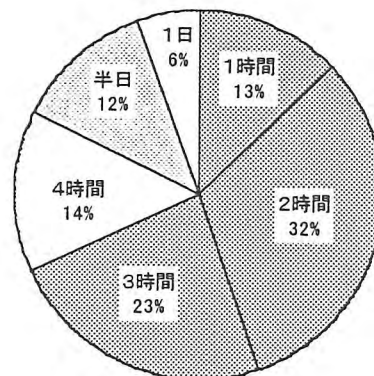


図-13 1種目の適当な活動時間

6) 施設等の設備について

森林とのふれあい活動や林業体験において、森林内にあればよい施設は何かを聞いたところ、遊歩道、トイレ、案内板、植物名札が上位を占めました（図-14）。手軽にかつ快適に、また、効果的に森林内での活動を行う上で、これらの施設を重要視していることがわかりました。

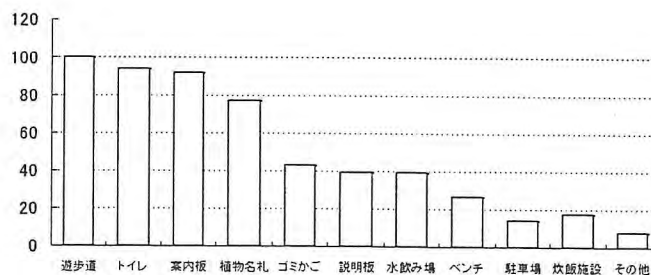


図-14 森林に必要な施設

4 今後の留意点

以上のアンケート結果を踏まえ、今後の当署における森林ふれあい活動の留意点を5項目にまとめてみました。

(1) 広報宣伝活動の充実

森林管理署で実施している森林ふれあい活動等について、約6割の人が知らなかったと答えています。募集時、活動実施日等におけるマスコミ対策や管内市町村広報の活用、学校への呼びかけ、対外的な各種会議における宣伝活動等の強化により、広く一般市民が森林管理署の活動内容を知ることができる取り組みが必要です。

(2) きめ細やかなメニューの組み合わせ

森林ふれあい活動等に「内容」で参加を決めるといふ人が若い人を中心に全体の約5割存在しており、活動メニューの如何が参加者数に大きく影響を受けます。森林ふれあい活動種目を行いたい種目として、森林浴、ハイキング、登山、山菜・キノコ取り、動植物観察が、林業体験としては、植樹、下草の刈り払い、枝打ち、ゴミ拾いが上位を占めています。特に、森林浴、動植物観察はどの世代でも人気が高く、年齢による影響を受けない活動と考えることができます。児童では、クラフトづくりやゲームなど森の遊び全般に幅広い興味を示しています。活動メニューの選択に当たっては参加世代を考慮に入れつつ、これらのメニューを適期を踏まえ適切に組み合わせるなど、参加者の興味と意欲を減退させない工夫が必要です。

適切な場所の設定

場所の選択に当たっては、特定の場所等画一化を避け、活動メニューに応じた適切な場所の選定に留意する必要があります。当署においては、月山ブナ林施業公園で多くの活動を行っており、今回の意識調査参加者の意向とも合致していますが、若年層では、針葉樹林での活動を望む声も多くあり、歴史的資産である庄内海岸のクロマツ砂丘林等の活用についても今後検討しなければならないと考えます。

(3) ボランティア機会等の提供

今回の調査参加者のほとんどの人が森林ボランティアの経験がないものの、今後機会があればボランティア活動に参加したいとする意志を持っています。「ふれあいの森」の設定、「フォレストボランティア」の公募等によって、ボランティア活動の場や参加機会を提供する取り組みが必要と考えます。当署においては、来年度ボランティア団体との森づくり協定の締結による森林パトロール等の実施について検討を進めています。また、子供は学校、地域ぐるみでの林業体験活動や地域の環境浄化への取り組みが可能なので、それを生かした活動も今以上に行っていく必要があります。

また、活動内容としては1種目の活動時間は3時間以内を相当とする意見が多数を占め、林業体験は「きつい」と考える人が多かったことから、1種目の時間配分をあまり欲張ら

ず、特に1日を単位として活動する場合には、参加世代の体力を考慮しながら、複数の種目を組み合わせることによって「きつさ」に強弱をつけるなどが必要です。

(4) 森林施設の整備

森林ふれあい活動に必要な施設では、遊歩道、案内板、トイレのほかに植物名札の整備を望む声が多数を占め、植物観察へ関心が高いことを示しています。日常の林野巡視等の機会をとらえて、利用頻度の高い森林の歩道沿いに樹木や植物の名札を整備する取り組みが必要と考えられました。なお、施設の整備にあたっては、自然景観との調和に留意し、高密度、乱立などは避けるなどの配慮が望まれます。

(5) 専門家の育成と実行体制づくり

今回の調査で、人々は多種多様な森林ふれあい活動を希望しており、これらの要請に応じていくには、高度の幅広い専門的知識、技術を必要としますが、森林生態、動植物、昆虫等に関する知識やクラフトづくり、森の遊び等の技術は十分といえない状況にあるといえます。

今後、局の研修の受講等により幅広い専門知識、技術を有する専門家の育成が必要と考えられます。当署では職員の理解と協力を得ながら得意とする分野をお互いがカバーし、多様なメニューを提供する現場も含めた署内体制づくりを行っていますが、これらの取り組みも継続していくことが望まれます。

5 おわりに

今回の意識調査では、森林管理署で実施している森林ふれあい活動等の業務が、広く一般のみなさんに知れ渡っていなかったこと、ふれあい業務の参加意向、望ましい活動種目や場所、時期等が明らかとなりました。

今後、森林ふれあい活動における国有林への期待はますます高まることが予想され、これらの期待に応えつつ、名実ともに「国民の森林」として地域に開かれた国有林とするため、今回の意識調査の結果を踏まえながら、児童、生徒、一般市民等のニーズに対応したきめ細やかな森林ふれあい活動に取り組んでいきたいと考えています。



写真-1



写真-6



写真-2



写真-7

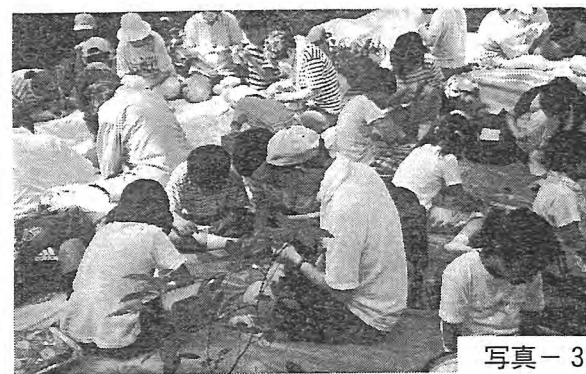


写真-3



写真-8



写真-4



写真-9

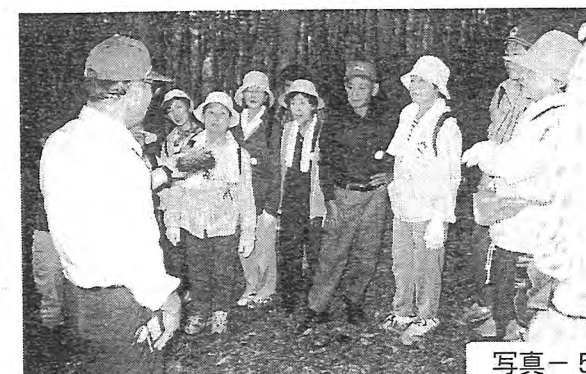


写真-5

スライドの写真集